



これからもずっと、地域とともに。

2025.1.1

Vol.97

JA長野厚生連  
北信総合病院

# 北信総合病院だより



新年のご挨拶 (2-3ページ)

病院祭 第61回も大盛況! (4-7ページ)

災害対応訓練 (8ページ)

新アンギオ装置導入! (8ページ)

新リニアックについて (8ページ)



新年のご挨拶

今年もよろしくお祈りいたします



JA長野厚生連 北信総合病院  
統括院長 荒井 裕国



NHK『新プロジェクトX』に出演した際の荒井統括院長

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、元旦に能登半島地震が発生し、大災害で明けた一年でした。被災地は高齢者の多い農村地域で、その田園風景は、当院の位置する北信州と重なるものがありました。当院は、いち早くDMAT第一隊を1月2日に珠洲市に送り出し、引き続き4隊のDMAT隊を派遣して災害救助活動に協力いたしました。その後も被災地を含め日本中の至る所が水害に見舞われ、地球温暖化の脅威を身近に感じた年でもありました。

今年、巳年。巳（へび）が冬眠から目覚めて地上に這い出すことから、巳年は、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年と言う意味があるとされているそうです。

当院では昨年、大規模な施設整備を行い、放射線治療装置リニアック（5.2億円）と血管造影装置シネアンギオ（2.3億円）を最新機種に更新し、診療体制の大幅な増強を図りました。リニアックはがんの治療には欠かせない放射線照射装置で、従来の機種に比べてより効率よく精密な照射が行えるようになりました。シネアンギオは、心筋梗塞や脳卒中の診断・治療には欠かせない機器で、従来は一方からのみの撮影しかできなかったものが、一度に2方向からの撮影が可能になり、造影剤の使用量が減らせるために患者さんの体への負担が軽減します。遠くまで通わなくても身近なところで、高度ながん診療を受けることができ、一方で、待たなしの心臓病や脳卒中も365日24時間体制で最新治療を受けることができます。

今年も当院も、巳の如く、被災地での活動経験を学びとし、新しく拡充した設備を武器として、昨年蓄えた力を地域医療の現場

でより一層発揮してまいり所存です。

さて、新型コロナが発生してから既に5年が経ちます。世間一般では過去のものとなりつつあるように感じられるかもしれませんが、ご高齢の患者さんが多いこの地域ではその勢いは未だに衰えることなく、毎日5人から多い時で10人近い患者さんが入院されています。昨年未だに累計で1,500人近い患者さんが当院に入院されました。私は、第1波の時に東京医科歯科大学（現東京科学大学）で、最重症の患者さんに対するエクモ治療の指揮を執っており、その時の模様が昨年末にNHKの「新プロジェクトX」で放送されました。チーム医療で病に立ち向かう挑戦者たちの姿は、大学病院も北信も同じです。こうした有事の経験も、蓄えた力として日常診療に生かしてまいりたいと思っております。

当院は、今年、80周年を迎えます。太平洋戦争末期、1945（昭和20）年5月の開院当時は常勤医師4人を含む全職員数21人という小さな病院でしたが、今では、常勤医師91人、職員数1000人にのぼる地域の中核病院に発展いたしました。こうして病院が発展して来れたのは、いつの時代にも「地域と共に」「地域のために」をモットーとしまりました私どもに対する地域の皆さまからの信頼とご支援あつての賜物と、深く感謝申し上げます。これからも地域とともに成長していくことをめざしてまいりますので、引き続き、皆さま方のご支援をよろしくお願い申し上げます。

本年が、皆さま方にとって幸多き年となることを心よりお祈りいたします。



JA長野厚生連 北信総合病院  
院長 山崎 正志（やまざきまさし）

明けましておめでとうございます。新年といえば干支（えと）ですが、干支は十干（じっかん）と十二支を組み合わせたものです。2025年は、十干の2番目にあたる「乙（きのと）」と、十二支の「巳（み）」が組み合わせ、乙巳（きのとみ）の年となります。

「乙」には草木がしなやかに美しく成長するという意味があり、「巳」は神聖な生き物である蛇を指します。巳は脱皮を繰り返して成長することから、再生、治癒、そして発展の象徴ともされています。このため、乙巳の年は努力が実を結び、最大限に成長・発展する年といわれています。

さて、前置きが長くなりましたが、当院を含む日本の医療を取り巻く環境は、依然として厳しい状況です。少子高齢化が進行し、昨年の出生数はついに70万人を下回る見込みです。学校の統廃合が進む中、病院も同じように現状を維持するだけでは生き残れない時代となっています。

しかし、どのような時代であっても、地域住民の命と健康を守る使命は変わりありません。今年、乙巳の年にふさわしく、当院も地域とともに成長し、発展できるよう努力してまいります。本年も何卒よろしくお祈り申し上げます。



北信総合病院 老人保健施設「もえぎ」  
施設長 下山 丈人（しもやまたけと）

明けましておめでとうございます。2025年（令和7年）が走り出しました。昨年は多くの皆さまに老人保健施設「もえぎ」をご利用いただき、また、ご家族、ボランティアや地域の皆さまなど多くの方々にお支えいただき、大変感謝しております。

念願でありました『もえぎ祭り』も、外部からの一般参加はない形式でしたが、軽食の提供も行い、何とか開催することができ、多くのご利用者様に楽しんでいただきました。

今年も更に規模を拡大して開催したいと夢を膨らませております。昨年は多くのことで新型コロナウイルス感染症に対応した生活様式から普段の生活様式に戻りつつある感がありました。街行く人々や新幹線や電車の車内でもマスクをしない人々が多くなり、飲食店に賑わいが戻り、宴会なども再開されています。しかしながら、当施設内を見ても、面会制限やマスクの着用など感染症対策が以前と変わらず残っております。今年も当施設でも可能な限り、これらの対策を緩めていけるところは緩めていきたいと考えております。今年も一層の努力を積み重ね、より良い施設をめざしていきます。

今年もどうか『もえぎ』をよろしくお願い申し上げます。今年が皆さまにとってより良い年でありますように。



北信総合病院附属 北信州診療所  
所長 曾根 進（そねすすむ）+スタッフ一同

新しい年にあたり、ご挨拶を申し上げます

昨年の夏はとて暑く、しかも長く続きました。夏の終わりから、秋の採血結果を見ていると、いつもより腎臓機能が悪い人が多い印象があり、気づかないうちに軽い脱水になっていることが示唆されました。

それでも夏場は「脱水、熱中症に注意しましょう」とよく言われるので、こまめに水分をとるよう意識されている方も多いと思いますが、冬場になると、「トイレが近くなるから」、などということもあり、あまり水分をとらなくなる人も多いです。しかし、冬場もこたつに入っていると割と脱水になりやすいので、こまめに水分をとるように意識することをおすすめします。年齢を重ねるにつれ、だんだん体の保水量が減っていきますので、一度にたくさん飲む必要はないですが、こまめに水分をとりましょう。

今年も、地域の皆さまの健康増進と未永く元気で暮らせる社会づくりのお手伝いをするを基本理念として、「気軽に相談できる地域の診療所」を心がけて、来院して下さる皆さまのニーズに合わせ、「笑顔」で、職員一同努力してまいりたいと存じます。

皆さまにとっても、この新しい年がより良き年になりますよう心より祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。



2025



第61回

# 病院祭



「地域のいのちと暮らしを守るために」をテーマに  
**2,913人が来場。**ありがとうございました。  
2025年、当院は80年をむかえます！  
今年の病院祭もぜひ楽しみに！



第61回  
病院祭の賑わい

第61回病院祭は、中野市えびす講にあわせて11月9日(土)に予定し、天候に恵まれ秋晴れのさわやかな陽気の中で開催ができました。

さて、今年度のテーマは「地域のいのちと暮らしを守るために」としました。

今回は、テレビ北信ケーブルビジョンにて放送中の「北信病院なび北の窓から」の公開収録を行い、荒井統括院長をはじめ山崎院長、蜂谷小児科部長、佐藤糖尿病・内分泌内科医長と専門医による講演、市民公開講座では、藤森外科部長による膵がんについて講演を企画しました。また院内の催しとして、正面中央待合ホールでは、DMAT隊の能登半島地震災害での活躍を中心に紹介し、外来棟では、各診療科のパネル展示をはじめリハビリ体験や骨密度や尿・血糖検査等の検査コーナーも大変な賑わいとなりました。

さくらホールでは、中野市出身バリトン歌手の中村詞文さんによるコンサート、正面駐車場のお祭り広場では、和太鼓やバンドによるミニライブが行われました。(6ページに続きます)

(病院祭実行委員会事務局 山田善康)

Topics  
1

地域がん診療病院 市民公開講座

どうする膵がん  
～知ってほしい膵がんのこと～

講師：藤森 芳郎 外科部長



藤森先生のお話は、膵臓の位置や大きさ、はたらき、そして膵がんの原因や特徴といった基礎知識から始まりました。家族歴、慢性膵炎、喫煙、肥満、糖尿病などがリスク要因であることも指摘されました。また、早期発見の重要性に触れ、血液検査、超音波検査、CT検査、MRI検査などの具体的な検査方法が紹介されました。さらに、最新の薬物治療や放射線治療、手術治療についても詳しく解説されました。



Topics  
2

バリトン・ミュージカルシンガー

中野市出身  
バリトン・ミュージカルシンガー  
中村 詞文 さん

中村詞文さんのコンサートは、立ち見が出るほどの大盛況でした。地元出身ならではのエピソードを交えながら、クラシックからポップスまで多彩な楽曲を披露してくださいました。途中からはスペシャルゲストの渡邊航平さんも参加し、30分間のステージはあっという間に終了。最後には盛大な拍手が送られました。



Topics  
3

ウインドアンサンブル演奏会

中野西高等学校  
ウインドアンサンブル  
演奏会

中野西高等学校ウインドアンサンブルは、吹奏楽コンクールで毎年優秀な成績を収めておりマーチングでも定評のある実力派チーム。病院祭で披露した曲は12月のコンクールで演奏し、「銀賞」を受賞したそうです。病院祭での演奏はご来場の皆さまの反応を間近に感じることができ、とても良い経験になったとの感想をいただきました。ありがとうございました。



Topics  
4

「北信病院なび～北の窓から～」公開収録

地域を支える病院の役割  
～荒井 裕国統括院長のお話～

最初に荒井統括院長から、地域を支える病院としての役割についてお話がありました。特に、災害時に備えた日常的な訓練や、能登半島地震後の医療支援活動について紹介されました。また、今年10月に導入した最新式の放射線治療装置「リニアク」や、12月に導入した最新型の血管造影装置「アンギオ」（一度の撮影で異なる2方向からの画像が取得可）についても説明され、地域に最先端の医療を提供する取り組みが紹介されました。

## Column

「北信病院なび～北の窓から」公開収録を終えて

「北信病院なび～北の窓から」は当院から地域の皆さまへ新しい情報を発信するため、毎月制作してまいりました。制作開始から118回目、今回はなんと病院祭で公開収録を行いました。

普段は「～北の窓から」のタイトルどおり、統括院長室の北の窓から見える高社山をバックに撮影するのですが、今回は初の公開収録！大仕事を引き受けたとはいえ、大勢の病院祭来場者の皆さまの前で撮影するという緊張でしたが、期待感とワクワク感が勝りました。というも知りたい情報をわかりやすく伝えるのがこの番組の目的であり、今回は皆さまの顔や反応が見られるのも公開収録ならでは！私もこの番組制作に改めて喜びを感じました。

これからも地域の皆さま目線によりわかりやすい番組を目指し、楽しみながら番組制作をしてまいります。今年からは院内の中央待合ホールでも放映していますので、ぜひご覧ください。先生方や裏方のスタッフのおかげで公開収録は大成功でした。来年もぜひ開催したいです！

「北信病院なび～北の窓から」の放送時間

毎日3回 6:45～7:00、11:45～12:00、

\*22:45～23:00 (\*放送局の都合により放送時間変更あり)

Corner1



冬に注意したい小児感染症 講師：蜂谷 明 小児科部長

小児科の蜂谷先生は、冬に注意すべき小児の感染症について、インフルエンザ、胃腸炎、ウイルス性胃腸炎を挙げて解説しました。また、小児科を受診する目安として、発熱、けいれん、嘔吐、咳、喘鳴などの症状を紹介。普段からお子さんの様子をよく観察し、「いつもと違う」「何か変だ」「ぐったりしている」といったサインを見逃さないようにとアドバイスされ、迷ったり困ったときには病院の相談窓口を活用するよう勧められました。

Corner2



認知症の予防と最新治療 講師：山崎 正志 病院長／脳神経内科部長

山崎病院長は、認知症と物忘れの違いについて分かりやすく説明してくださいました。特に、老化による物忘れと認知症による物忘れの違いに焦点を当て、認知症の新しい治療薬「レカネマブ」のメカニズムや治療法、さらに治療に必要なアミロイドPET検査についても紹介されました。

Corner3



2型糖尿病とは？ 講師：佐藤 友香 糖尿病・内分泌内科医長

佐藤先生は、糖尿病の基礎知識からお話を始め、北信地域における2型糖尿病患者のヘモグロビンA1cや血糖値の推移について詳しく解説されました。特に秋から春にかけて血糖値が上昇しやすい傾向があり、その原因として果物の過剰摂取や農繁期の終了後に運動量が減少することが挙げられました。食事管理の重要性にも触れ、適切な生活習慣の維持を強調されました。



### 第61回 病院祭の賑わい

毎年恒例で大人気の消防・救急車両の見学会、労働組合主催による恒例のお餅つきや、お餅の振る舞いは長蛇の列となりました。子どもたちへの企画は、お菓調剤や内視鏡カメラの体験、綿あめ、ポップコーンの無料配布を行う等、大人から子どもまで楽しみながら学べる企画としました。

正面駐車場では、地域のキッチンカーによる出店、JAによる農産物販売は午前中に完売となるなど、大盛況でした。楽しみにしていたドクターヘリが急遽飛来できず、ヘリポート見学会に企画を変更しましたが大勢の方がヘリポートまで来てくださいました。

今年は心地よい秋晴れも重なり、2,913人ももの来場者に恵まれました。このたびの病院祭が成功裏に開催できましたことは、JAならびに行政をはじめ、岳南広域消防本部、社会福祉協議会等関係各位の皆さま方のご支援、ご協力によるものであり心より感謝を申し上げます。

最後に、反省すべき点は多々ありますが、職員と労働組合が一丸となって取り組んだ結果、次年度へ繋がる病院祭となりました。  
(病院祭実行委員会事務局 山田 善康)

### Topics 5 もちつき

毎年恒例のもちつきでは、統括看護部長、統括事務長も参加して祭りに華を添えてくださいました。つきたてのおもちを引き換えるために長蛇の列ができるほどの人気で、皆さんはそのその美味しさに笑顔を浮かべていました。



### Topics 7 内視鏡室の体験コーナー

内視鏡室ではたくさんの方に内視鏡に興味をもっていただけるような取り組みにしたいと考え、消化器内科の医師と相談し胃カメラの体験コーナーや内視鏡の展示などを行いました。当日は140人ほどの方に来ていただき、特に子どもたちに人気でした。



体験コーナーでは、ものをつかむ為の器具である把持鉗子(はじかんし)と内視鏡を使い、箱の中に入っているお菓子のつかみどりをさせていただきました。

お菓子をつかむ際に画面に大きく映って難しい、カメラや把持鉗子の操作が難しいなどの声が挙がっていましたが、消化器内科の医師の協力もあり、全員がお菓子を獲得でき楽しんでいただけました。

今回の取り組みでたくさんの方に内視鏡を身近に感じていただき、病気の早期発見、早期治療のために内視鏡検査を受けてみていただけたらと思います。

またこの機会を通じて子どもたちが内視鏡に興味をもち、医師をはじめとする医療従事者をめざすきっかけになれば嬉しいです。

(内視鏡室 湯本 玲伊)

### Topics 6 無料!職員による「お祭り広場」

職員による射的やボーリングなどのゲームコーナーも大盛況で、たくさんの景品やプレゼントが用意され、子どもたちが大いに楽しんでいました。



### Topics 8

#### 観覧・展示コーナー

観覧・展示コーナーには、職員が手作りで工夫を凝らしたディスプレイが並び、参加型・体験型の展示も多数あり、大変賑やかな雰囲気でした。また、健康や医療に関する役立つ情報も豊富に紹介され、来場者の関心を集めていました。



### Topics 9

#### ドクターヘリ

ドクターヘリの見学は出動要請があったため中止となりましたが、代わりにヘリポートを開放しました。秋の澄み渡る空と美しい山並みを楽しむ多くの来場者で賑わいました。



### Topics 10

#### ポスターイラスト表彰

今年の病院祭では、ポスターに使用した絵を18歳未満の職員家族から夏休みに募集し、優秀作品には表彰状と記念品が授与されました。



## Column

### 第61回病院祭を終えて

当院労働組合は、毎年「お祭り広場」のブースを担当しております。今回の病院祭では、正面駐車場にて綿あめ・もちつき・ポップコーン・ホットドリンク等の飲食ブース、外来診療棟2階図書室にて射的・輪投げ・ボーリング等のアトラクションブースを運営しました。当日は天候にも恵まれ、多くの方にご来場いただき両ブースとも大盛況でした。

また、正面玄関入口では署名活動も行いました。こちらにも、多くの方にご賛同いただき200筆以上の署名を集めることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

地域の皆様とふれあい、繋がることのできる病院祭は、組合活動の中でも重要なイベントと考えております。今後も、更なる発展に向け準備を進めていきたいと思っておりますので、第62回病院祭もぜひお越しください。

(労働組合 執行委員長 仲條 照)



## 災害対応訓練を実施しました

当院では、毎年災害対応訓練を実施しています。今年は大気警報発令中に震度6強の地震が発生し、さらにバス転落事故による多数傷病者が発生するという複数の災害を想定して行いました。東北信保健福祉事務所や岳南広域消防本部、南長野医療センター篠ノ井総合病院DMATと連携し、約200人が参加しました。

訓練は午前中に、病院幹部の初動対応とDMATによる応急救護所の運営訓練、午後は災害対策本部の設置と多数傷病者の受け入れ訓練を実施。傷病者役として県須坂看護専門学校の学生にご協力いただきました。

今回は初めて浸水を想定し2階に診療エリアを設置、運営する訓練も行い、課題はありますが対応が可能であることを確認しました。

当院は、繰り返し訓練を行い、災害時に確実に対応できる体制を構築しています。今後も地域の災害拠点病院として、平時・災害時ともに皆さまの医療を守る取り組みを続けてまいります。



## 最新の医療機器のご紹介

New!

## 「血管撮影装置 アンギオ」2024年12月運用開始

診療放射線技師 小林 未幸



2024年12月より稼働している一度の撮影で異なる2方向からの画像撮影が可能な血管造影装置により、迅速でより正確な診断ができ、放射線被ばくも低減されました。  
Philips社製バイプレーン/Azurion7 B 20/12

患者さんの負担がさらに軽くなります。

加えて、タッチパネルによる直感的な操作や、手元で画像のズームやマーク付けが可能になるなど、医師や放射線技師の作業効率も向上。これにより、治療精度の向上と迅速な対応が可能となりました。

新装置導入に伴い、スタッフ一同がコミュニケーションを密にし、患者さんが安心して検査や治療を受けていただける環境づくりを目指します。

アンギオ装置とは、心臓や脳などの血管を造影剤とX線を用いて撮影する医療機器で、心筋梗塞や脳動脈瘤の診断・治療に使用されます。今回、当院では新たにバイプレーン方式のアンギオ装置を導入しました。従来のシングルプレーン装置では、1回の撮影ごとにX線照射機（Cアーム）の角度を調整し、毎回造影剤を注入する必要がありましたが、バイプレーン装置では一度の撮影で異なる2方向からの画像が取得可能です。

これにより、造影剤の使用量が減少し、検査時間の短縮が期待できます。また、最新の技術でX線の被ばく量を抑えられるため、患者さんへの身体的負担が軽減されます。さらに、心臓の検査では、心拍に合わせて血管が表示される「リアルタイム動画ロードマップ」を搭載。これにより、造影剤を使わずにカテーテルやガイドワイヤーの位置を把握できるため、

New!

## 「放射線治療装置 リニアック」2024年10月運用開始

診療放射線技師 山田 達人



Varian社製 VitalBeam



リニアック操作室

当院は最新の放射線治療装置「リニアック（直線加速器）」を導入しました。この新システムにより、治療の正確性・安全性・快適性が向上し、患者さんへの負担が軽減されました。

## 1. 治療の正確性向上

新しいリニアックは、レントゲンやCT画像を瞬時に取得し、三次元的に体の位置を調整できるシステムを搭載しています。これにより、従来よりも短時間で高精度な位置合わせが可能となり、病巣への放射線照射がより正確になりました。また、体表面画像誘導システムを導入することで、患者さんが治療中に少し動いた場合でも即座に位置を確認でき、誤照射を防ぎます。

## 2. 健康な組織への負担軽減

新リニアックは、定位放射線治療（SRT）や強度変調放射線治療（IMRT）など、より精密に放射線を照射できる技術に対応しています。これにより、病巣に集中して放射線を当てながら、周囲の健康な組織への影響を最小限に抑えることが可能です。これが副作用の軽減につながります。

## 3. 治療時間の短縮と快適性向上

画像取得や位置合わせの時間短縮により、1回あたりの治療時間が短縮されました（約5～15分程度）。これにより、長時間じっとしていることによる不快感が軽減され、通院治療もよりスムーズに行えます。

## 4. 患者サポートの強化

治療中の不安や体調に関する相談には、放射線技師や看護師が一丸となってサポートいたします。治療を安心して受けられる環境づくりに努めています。

今回のリニアック更新により、より正確で安全、そして快適な放射線治療を提供いたします。放射線治療を検討中の方は、ぜひ主治医にご相談ください。



外来担当医表はこちらです！

病院ホームページ、  
外来担当医表をご確認ください。



Instagramはこちらです！

病院公式Instagramを  
ぜひフォローして下さい。

